

平成27年9月期 中間決算の概要

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て



ウォーム・マネー

WARM の MONEY

福島銀行

平成27年9月期 中間決算の概要

(1) 決算ダイジェスト	・・・ p. 2
(2) 損益状況	・・・ p. 3
(3) 預金（NCDを含む）・預かり資産	・・・ p. 4
(4) 預かり資産	・・・ p. 5
(5) 貸出	・・・ p. 6
(6) 有価証券	・・・ p. 7
(7) 収益性	・・・ p. 8
(8) 与信関連費用	・・・ p. 9
(9) 健全性	・・・ p. 10
(10) 上期中の主な取組み	・・・ p. 11
(11) 平成28年3月期の決算予想	・・・ p. 12
(12) 当行のプロフィール	・・・ p. 13

損益状況

- 経常収益 82億円（前年同期比 5億円増収）
- 経常利益 10億円（前年同期比 11億円減益）
- 中間純利益 6億円（前年同期比 11億円減益）

財務状況

- 自己資本比率 10.52%（バーゼル3国内基準:単体）
- 金融再生法開示債権比率 2.52%（27年3月末比 0.14%改善）

主要な取組み

- 地方創生に向けた取組み:地元企業支援チームや創業支援チームの設置。福島での再チャレンジ支援を目的とした「福活ファンド」^{ふっかつ}の設立。
- 「10大イベント」をはじめとした社会貢献への積極的な取組み。

(2) 損益状況

(単位:億円)

	26/9月期	27/9月期	前年同期比
経常収益(①+⑦)	76	82	5
業務収益①	63	69	5
貸出金利息	38	36	▲2
有価証券利息配当金	12	15	2
受入手数料	9	9	0
国債等債券売却益(債券関係益)②	2	7	4
業務費用③	52	66	14
預金利息	2	2	0
支払手数料	5	5	0
一般貸倒引当金繰入④	—	▲0	▲0
国債等債券償還損(債券関係損)⑤	0	14	13
営業経費	43	45	1
人件費	20	21	0
物件費	19	20	0
業務純益⑥(①-③)	11	2	▲8
コア業務純益{⑥-(②-⑤)+④}	9	8	▲0
臨時収益⑦	13	12	▲0
株式等売却益	5	7	2
償却債権取立益	4	1	▲3
貸倒引当金戻入益	1	—	▲1
臨時費用⑧	1	5	3
個別引当金繰入額	—	3	3
臨時損益⑨(⑦-⑧)	11	7	▲3
経常利益⑩(⑥+⑨)	22	10	▲11
特別損益⑪	—	▲1	▲1
税金等⑫	4	2	▲1
中間純利益(⑩-⑪-⑫)	18	6	▲11

- 経常収益は 82億円、前年同期比 5億円の増収。
— 有価証券利息配当金や国債等債券売却益が増加。
- 業務純益は 2億円、同 ▲8億円の減益。
— 貸出金利息が金利低下によって減少したことに加え、上期中の海外金利の大幅上昇に伴い、外債型投信で解約損を計上したことを主因に業務費用が増加。
- 臨時損益は 7億円、同 ▲3億円の減少。
— 個別引当金繰入額が増加したことに加え、償却債権取立益が前年同期比減少。
- この結果、経常利益は 10億円、同 ▲11億円の減益。
中間純利益は 6億円、同 ▲11億円の減益。

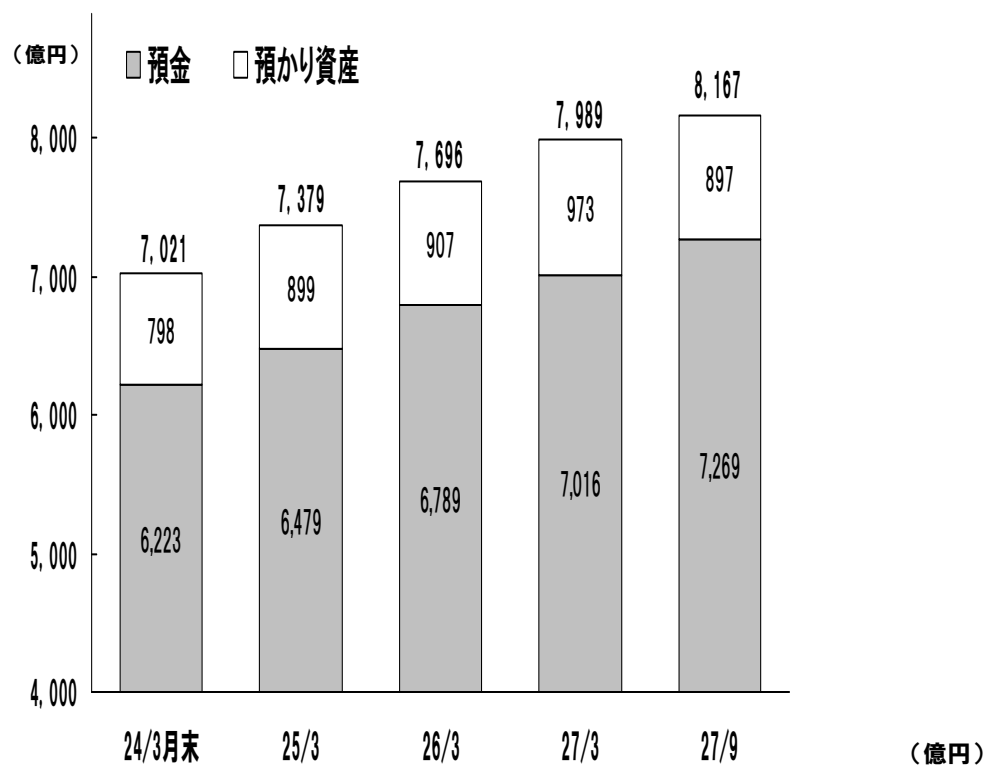
(主な減益要因)

(単位:億円)

	平成26年9月期	平成27年9月期	前年同期比
● 貸出金利息	38	36	▲2
● 有価証券関係損益	19	16	▲2
うち有価証券利息配当金	12	15	2
うち国債等債券売買損益	1	▲6	▲8
うち株式等売買損益	4	7	2
● 与信関連費用 (<注> ▲は費用増)	▲0	3	(注) ▲4
● 償却債権取立益	4	1	▲3

(3) 預金(NCDを含む)・預かり資産

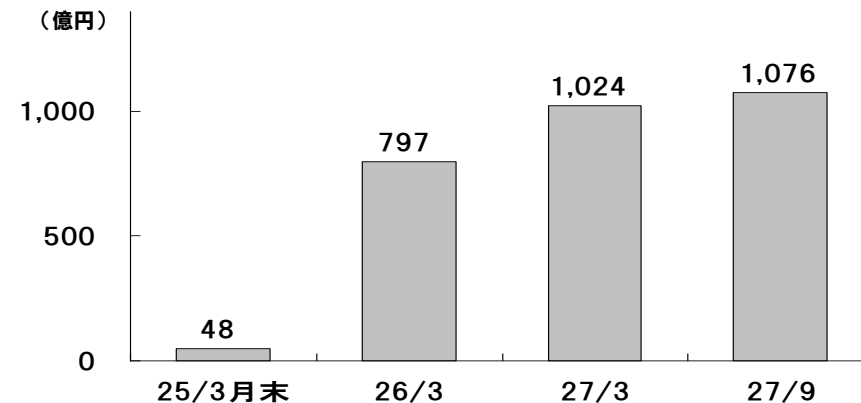
○ 預金+預かり資産残高推移



	24/3月末	25/3	26/3	27/3	27/9	3月末比	前年同期比
預金	6,223	6,479	6,789	7,016	7,269	253	182
うち個人	4,779	4,923	5,080	5,158	5,192	33	55
うち一般法人	1,104	1,126	1,259	1,327	1,431	104	47
うち地公体他	338	428	448	530	645	115	79
預かり資産	798	899	907	973	897	▲ 75	▲ 33
合計	7,021	7,379	7,696	7,989	8,167	177	148

- 預金(NCDを含む)+預かり資産の残高は 8,167 億円。27年3月末比 177億円(+ 2.2%)増加し、過去最高を更新。
- このうち、預金(NCDを含む)残高は、震災関連賠償金等の流入継続や復興需要により企業の手許資金が増加していることなどから同 253億円(+ 3.6%)増加し 7,269億円。
 - 預金のうち、尾瀬の自然環境定期預金「ふくぎんエコ定期 みんなの尾瀬」の9月末の残高は 1,076億円(同 +52億円)。

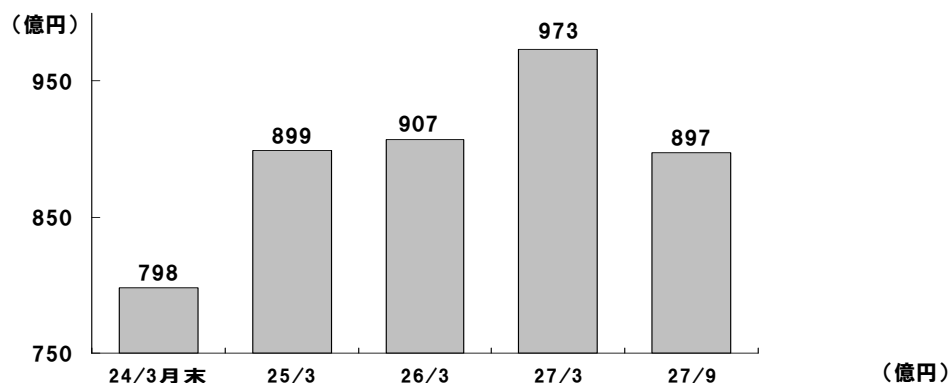
○ ふくぎんエコ定期「みんなの尾瀬」推移



(4) 預かり資産

- 預かり資産の残高は 897億円。世界的な株安の影響を受け、投資信託の基準価格が下落したことを主因に、27年3月末比 ▲75億円 (▲7.7%)減少。
- 預かり資産の販売額は 126億円。市場の不安定化による投資意欲の低下などから投資信託の販売額が減少し、26年度下期比▲19億円減少 (26年度上期比 ▲2億円)。こうした中で、安定した収益が見込める保険商品の販売は同 7億円増加。
- 25年4月からサービスを開始したインターネット投信の販売額は 31億円と、26年度下期 (38億円)を下回ったものの、投資信託販売に占める割合は 34.5%に上昇。
- 預かり資産関連手数料は 438百万円。投資信託の販売額減少を主因に 26年下期比 ▲61百万円減少。
- お客様に質の高い投資情報を提供するため、シニア向け「お金の活用セミナー」を全店で延べ 105回開催。また、「働く人の休日金融セミナー」を県内4か所で開催。

○ 預かり資産残高推移



	24/3月末	25/3	26/3	27/3	27/9	3月末比	前年同期比
投信	414	481	466	547	474	▲72	▲21
保険	330	366	389	378	377	▲0	▲8
公共債	53	51	51	47	45	▲2	▲3
合計	798	899	907	973	897	▲75	▲33

○ 預かり資産販売額推移

(億円)

	25/上期	25/下期	26/上期	26/下期	27/上期	26/下期比
投信	72	74	98	117	91	▲26
うちインターネット販売	4	11	18	38	31	▲6
ネット販売の割合(%)	6.3%	15.0%	18.5%	32.7%	34.5%	1.8%p
保険	35	19	24	23	30	7
公共債	7	5	6	5	4	▲0
合計	115	99	128	146	126	▲19

○ 預かり資産関連手数料推移

(百万円)

	25/上期	25/下期	26/上期	26/下期	27/上期	26/下期比
手数料	406	368	406	499	438	▲61

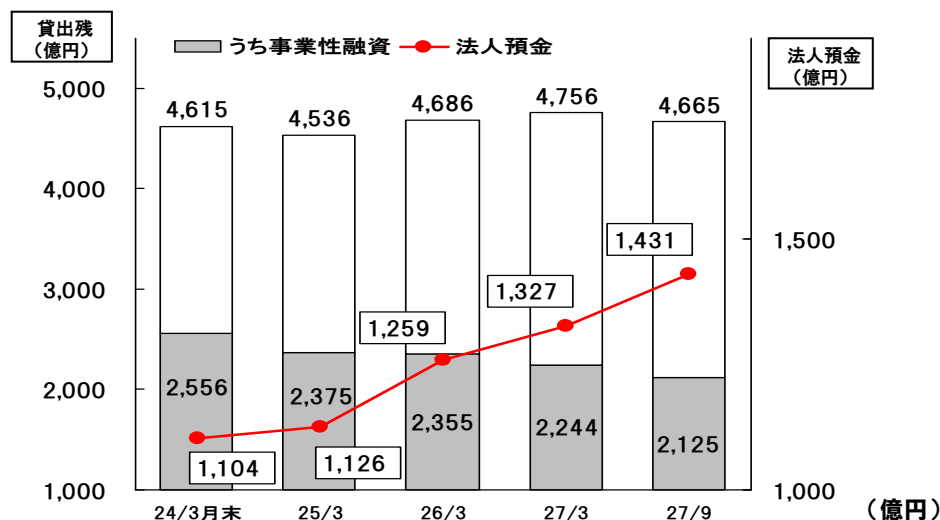
(5) 貸出

○ 貸出残高は 4,665億円、27年3月末比 ▲91億円 (▲1.9%)の減少。

— うち事業性貸出は、①賠償金流入や復興需要による企業の手許資金増加に伴う資金需要の伸び悩み、またそれに伴う繰り上げ返済、②金利の低い市場型貸出を抑制したことなどから同 ▲119億円 (▲5.3%)の減少。

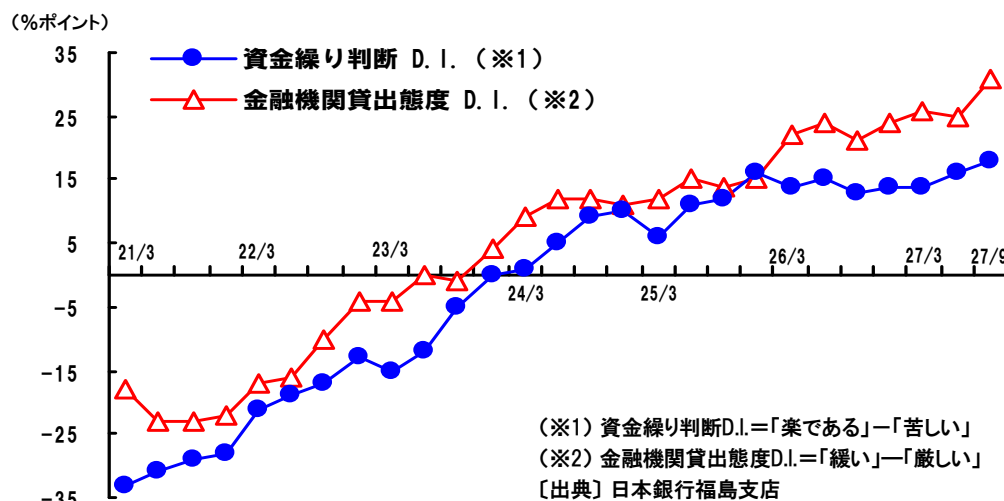
— 一方で消費性貸出は、同 12億円(+ 0.7%)の増加。なかでも、消費者ローンは同 26億円の増加。昨年 7月に開設したインターネット専用支店「いつでもどこでも支店」でのローン販売が軌道に乗ったほか、「マイカーローン e - 車助」の商品性改善などが奏功。

○ 貸出残高推移



(単位:億円)	24/3月末	25/3	26/3	27/3	27/9	3月末比	前年同期比
事業性	2,556	2,375	2,355	2,244	2,125	▲ 119	▲ 156
相対型	2,092	1,974	1,964	1,912	1,846	▲ 65	▲ 82
市場型	463	400	391	332	279	▲ 53	▲ 74
消費性	1,494	1,520	1,543	1,578	1,591	12	35
地公体	471	525	690	862	917	55	149
その他	103	116	95	70	31	▲ 39	▲ 44
合計	4,615	4,536	4,686	4,756	4,665	▲ 91	▲ 16

○ 企業金融判断D.I. (全産業・福島県内)



○ 消費性貸出残高推移

	24/3月末	25/3	26/3	27/3	27/9	3月末比	前年同期比
住宅ローン	1,371	1,391	1,400	1,414	1,400	▲ 14	▲ 7
消費者ローン	94	102	118	141	167	26	44
総合口座貸越	28	25	25	23	23	▲ 0	▲ 1
合計	1,494	1,520	1,543	1,578	1,591	12	35

(6) 有価証券

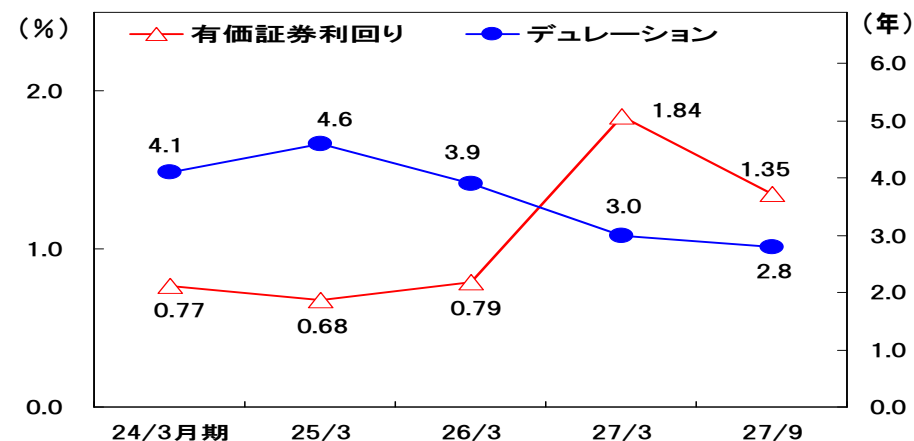
- 有価証券の残高は 1,838億円と、27年3月末比▲ 526億円 (▲22.2%)の減少。これは外債型投信を中心に大きな評価損をかかえた有価証券を売却する一方、収益確保のためと評価益を計上していた有価証券を両立てで売却したため。
- 有価証券利回りは 1.35%、26年度比 ▲0.49%低下。
- 債券のデュレーション(残存期間)は、2.8年とやや短期化(27年3月末 3.0年)。

○ 有価証券残高推移

(億円)

	24/3月末	25/3	26/3	27/3	27/9	3月末比	前年同期比
債券	1,647	1,972	2,092	1,763	1,319	▲444	▲ 675
うち国内債	1,395	1,818	1,948	1,673	1,253	▲419	▲ 607
うち外債	252	154	144	90	65	▲24	▲ 68
投資信託	52	60	53	523	444	▲78	297
うち外債型	44	48	49	382	282	▲100	141
うち株式型	8	12	4	127	142	15	139
うちその他	—	—	—	13	19	6	16
株式	54	59	62	75	72	▲3	12
その他	1	1	2	2	1	▲0	▲ 0
合計	1,757	2,094	2,210	2,365	1,838	▲526	▲ 366

○ 有価証券利回り・債券のデュレーション



○ 保有有価証券(「その他有価証券」ベース)の評価損益

(億円)

	24/3月末	25/3	26/3	27/3	27/9
債券	7	26	20	20	13
株式	▲ 2	6	10	24	16
投信等	▲ 7	2	3	4	▲ 4
合計	▲ 2	34	33	49	25

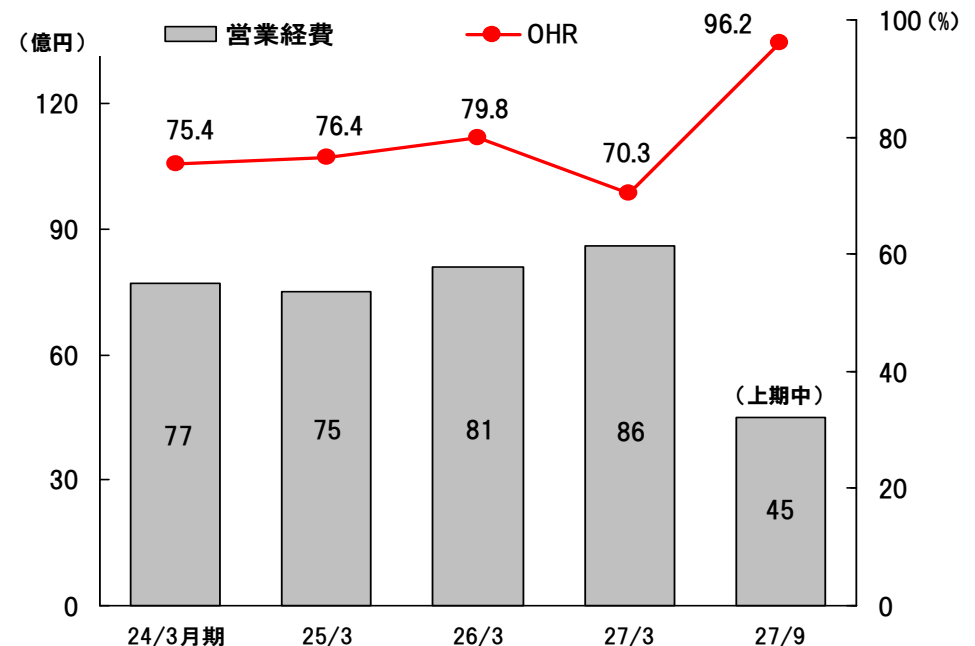
(7) 収益性

- 預貸金利鞘は、貸出金利回りの低下(26年度比 ▲0.09%ポイント)を主因に低下傾向を継続。
- 総資金利鞘は、貸出金利回りの低下に加え、有価証券運用利回りも低下したため同 ▲0.25%ポイント低下。
- ROEおよびROAは、中間純利益の減益を主因に低下。OHRは、業務純益が減益となったことを主因に上昇。

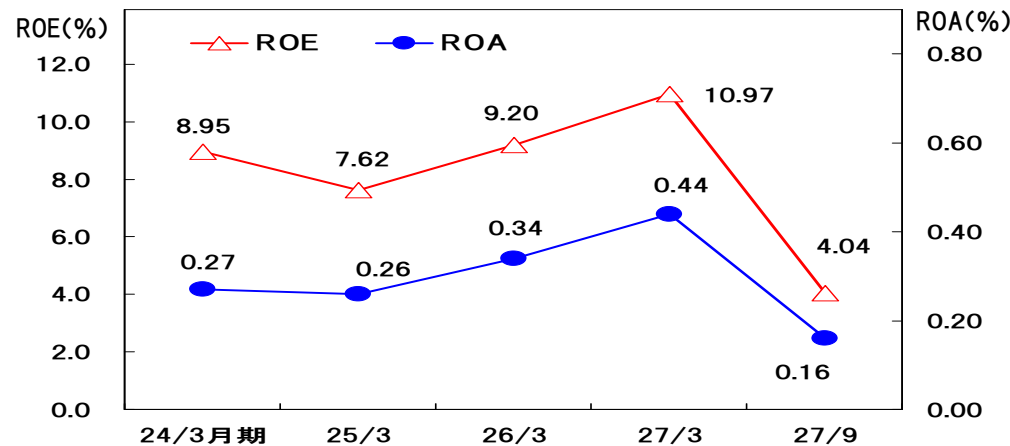
○ 総資金利鞘

		24/3月期	25/3	26/3	27/3	27/9	3月末比
貸出金利回り	A	2.06	1.88	1.76	1.63	1.54	▲ 0.09
資金運用利回り	B	1.64	1.46	1.41	1.63	1.39	▲ 0.24
有価証券利回り(参考)		0.77	0.68	0.79	1.84	1.35	▲ 0.49
預金債券等原価	C	1.41	1.29	1.29	1.29	1.32	0.03
預金等利回り(参考)		0.14	0.11	0.07	0.06	0.06	▲ 0.00
資金調達原価	D	1.39	1.29	1.29	1.28	1.29	0.01
預貸金利鞘 (A - C)		0.65	0.59	0.47	0.34	0.22	▲ 0.12
総資金利鞘 (B - D)		0.25	0.17	0.12	0.35	0.10	▲ 0.25

○ OHR



○ ROE と ROA

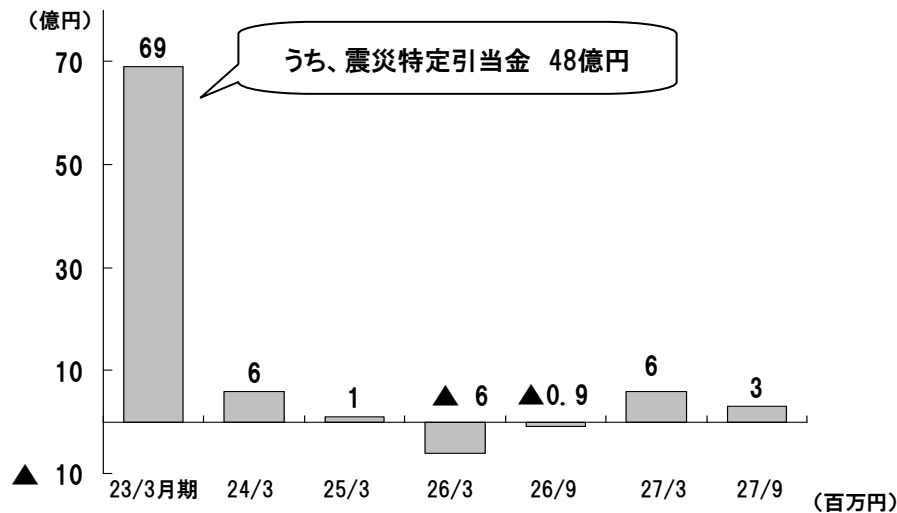


ROE = 中間純利益(年換算ベース) / 純資産平残
 ROA = 中間純利益(年換算ベース) / 総資産平残
 OHR = 営業経費(臨時処理分除く) / 業務粗利益
 ※ 平残 = (期首残高 + 期末残高) ÷ 2
 ※ 業務粗利益 = 業務純益(一般貸倒繰入前) + 営業経費(臨時処理分除く)

(8) 与信関連費用

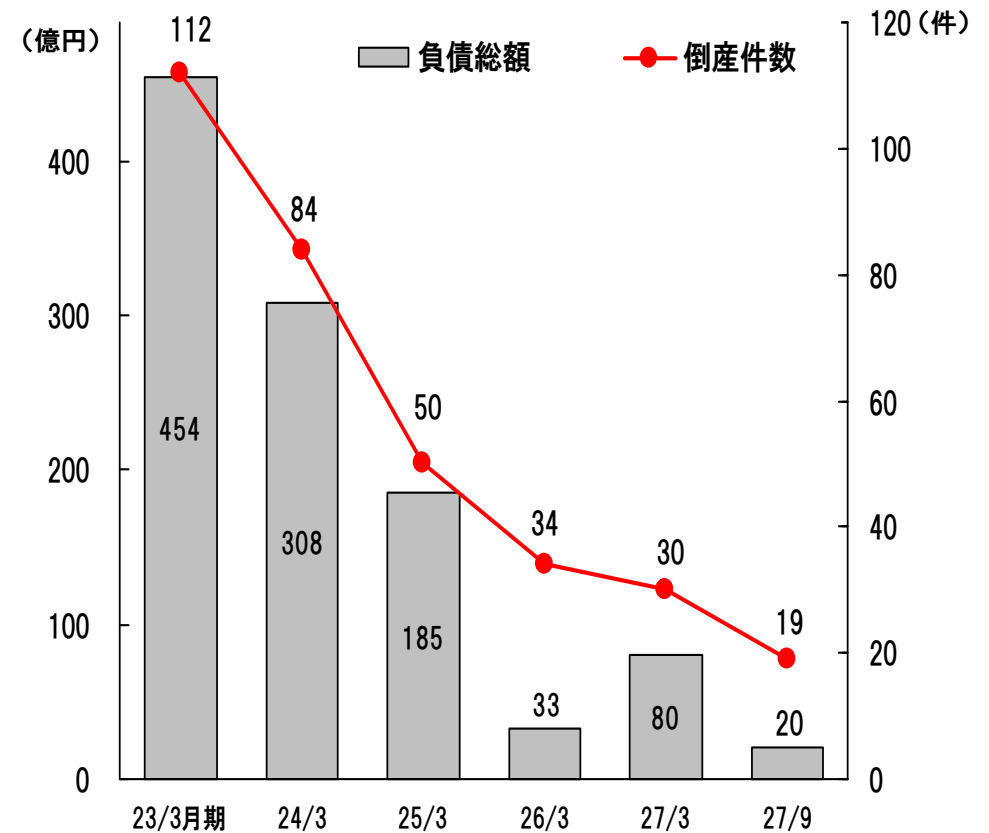
○ 与信関連費用は、業績の先行きに懸念のある先に対する引当てを予防的に厚く（293百万円）したことから、337百万円と前年同期比 431百万円増加。

○ 与信関連費用の推移



	23/3月期	24/3	25/3	26/3	26/9	27/3	27/9	前年同期比
与信関連費用 (①+②+③-④+⑤)	6,999	665	173	▲670	▲93	636	337	431
貸倒引当金繰入①	467	—	—	—	—	266	293	293
貸出金償却②	1,581	1,094	978	322	81	340	17	▲64
債権売却損等③	59	306	13	17	16	30	27	10
貸倒引当金戻入④	—	735	818	1,009	192	—	—	▲192
震災特定引当金⑤	4,890	—	—	—	—	—	—	—

○ 福島県内の企業倒産状況(負債額1,000万円以上)

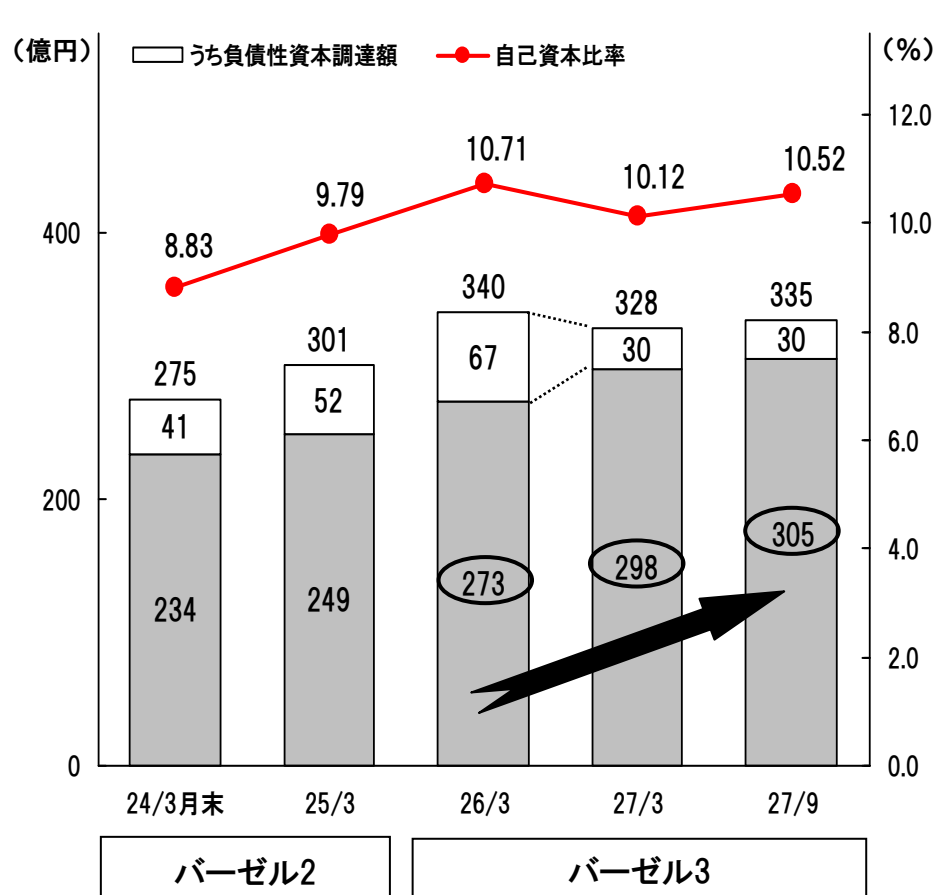


[資料]東京商工リサーチ

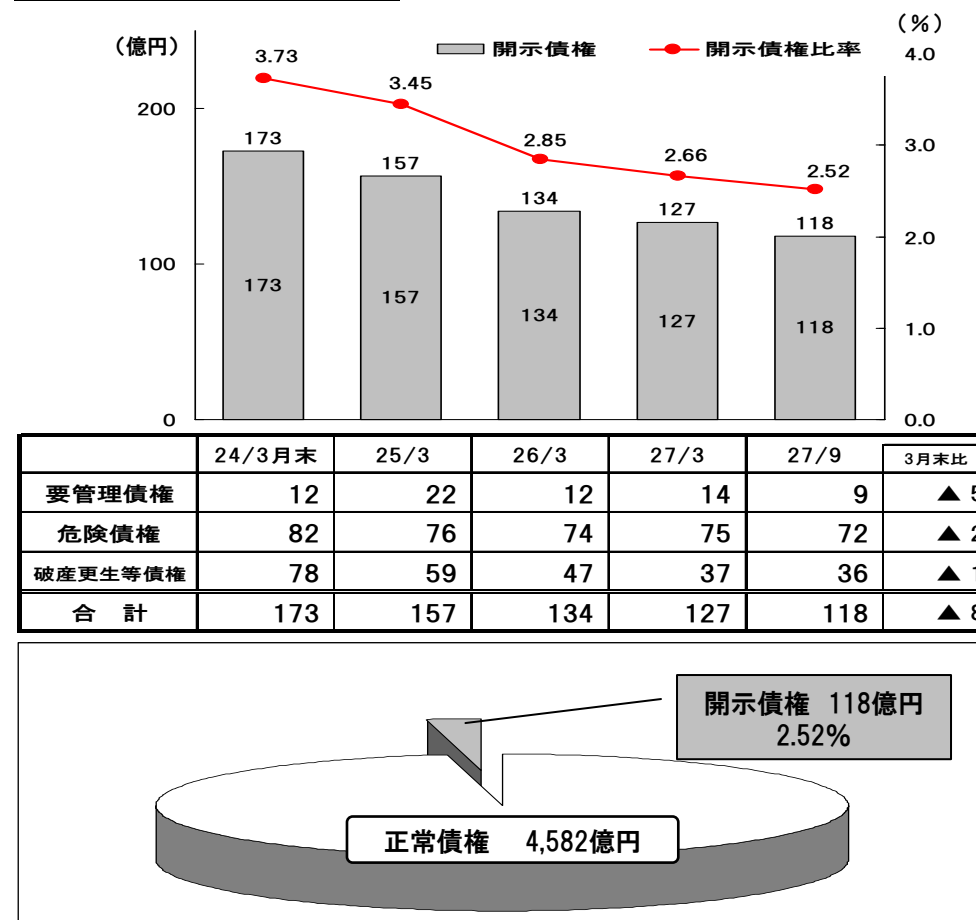
(9) 健全性

- 自己資本は、利益の積み上げにより 27年3月末比 +6億円増加し、335億円。このため、自己資本比率も 10.52%に上昇（27年3月末比 +0.40%ポイント）。
- 金融再生法開示債権は、企業倒産が低水準だったことや、企業の業況改善により借入金の返済が進んだことなどから、27年3月末比 8億円減少し、118億円。
- 金融再生法開示債権比率は 2.52%に低下し、過去最低を更新（ピークは平成14年9月期 19.6%）。

○ 自己資本・自己資本比率



○ 金融再生法開示債権



① 地方創生への取組み

- 地元企業支援と新規創業支援の強化を目的に、営業支援部内に「地元企業支援チーム」と「創業支援チーム」を新設（8月）。
- 福島創生の一環として、一般社団法人MAKOTOと福島県内での再チャレンジに特化（倒産等の経験があり、福島県内で設立する法人が対象）した投資ファンド『福活ファンド』（投資総額 10億円）を設立（8月）。
- 起業家が商品・サービスの開発やアイデアを実現するために、不特定多数の応援者から出資を募るクラウドファンディング『チャレンジスター』のサービスを開始（9月）。

② 社会貢献への取組み

- 季節ごとの10大イベントやシニアのお客様向けの「生き生き健康教室」などを開催し、上期中約1,400名が参加。

日本初、再チャレンジ特化ファンド

～福島県をあきらめない起業家のフロンティアに～

特徴①：日本初！
再チャレンジの仕組み

特徴②：福島県に
全国から起業家人材を
呼び込み福島創生を加速



全国から再チャレンジ起業家を、福島県に誘致！
その中から厳選したレベルの高い起業家を支援。



夏の10大イベント 第10弾 「尾瀬の魅力再発見ツアー」

(11) 28年3月期の決算予想

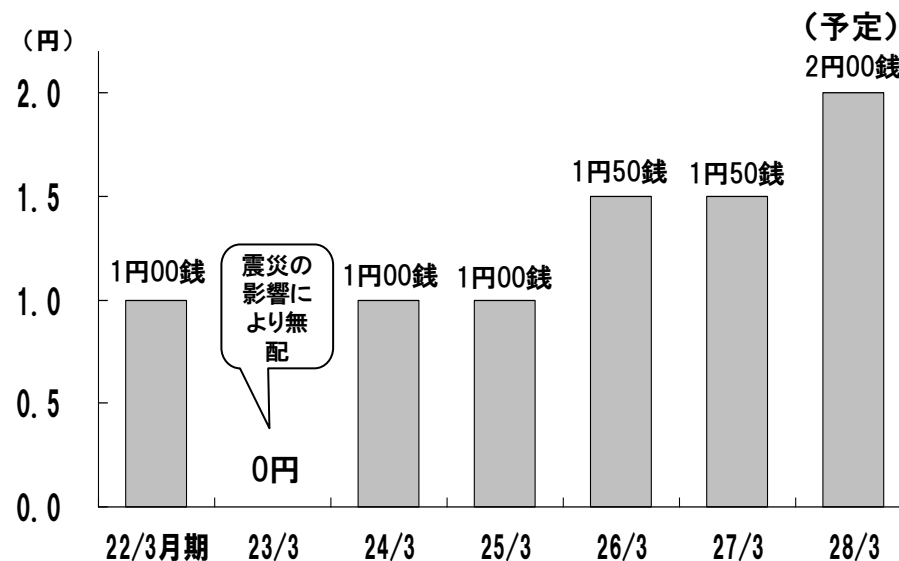
- 平成28年3月期は、単体で当期純利益 25億円を予想（当初予想 30億円）。
 - ― 上期収益の計画比大幅下方修正によるもの。
- 平成28年3月期末配当は、1株当たり 50銭増配し 2円00銭とする予定。

○ 平成28年3月期予想

(億円)

		26/3月期 実績	27/3月期 実績	27/9月期 実績	28/3月期 予想
単 体	経常収益	138	164	82	153
	経常利益	33	44	10	31
	当期純利益	24	32	6	25
連 結	経常収益	158	183	91	169
	経常利益	36	46	12	33
	当期純利益	27	34	8	27

○ 1株当たりの配当金



(12) 当行のプロフィール

平成27年9月末

〈本社所在地〉	福島県福島市万世町2番5号
〈電話番号〉	024-525-2525(代表)
〈設立年月日〉	大正11年11月27日
〈資本金〉	181億円
〈株主数〉	15,563名
〈従業員数〉	562名
〈店舗数〉	57店舗(5出張所、3ローンプラザ、1ネット支店含む)
〈預金残高〉	7,269億円(NCDを含む)
〈預かり資産〉	897億円
〈貸出金残高〉	4,665億円
〈自己資本比率〉	10.52%(バーゼル3国内基準:単体)
〈連結子会社〉	(株)ふくぎんリース、(株)福島カードサービス (株)東北バンキングシステムズ 福活ファンド投資事業有限責任組合

(お問い合わせ先) 株式会社福島銀行経営企画部 渡辺敦雄、松本崇宏 TEL: 024(525)2525 FAX: 024(536)5338

本資料には、将来の業績に係る記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより異なる可能性があることにご留意ください。